

## 第16回幸せになるための教育を実現する会議 議事録

日 時 令和6年11月18日(月)午後3時30分～午後5時

場 所 庁議室

委 員 神谷、鈴木、大崎、曾根、三浦

そ の 他 市長、企画部長、企画課長、学校教育課主任指導主事

議事録作成者 企画課 内田

---

### ○委員長

私どもの提言したことは、学校現場で少しずつ浸透してきていると感じます。今年1年で更に進め、子どもたちが幸せになるゴールに近づけば良いと思います。

### 1. 議題

#### (1) 意見交換

##### ① 石井英真氏 教育講演会(8月29日開催)について

### ○委員

内容が難しく感じました。講演会としては、講師の話を聞いて、隣の人と1分間考える時間を設け、アウトプットする、講演を進めるスタイルは面白いと感じました。

### ○委員

知識の羅列にすぎず、独自性や創造性が感じられず、面白いとは感じられませんでした。講演が長くなり、質疑の時間がなかったのは残念でした。ただし、勉強にはなりました。

### ○委員

難しかったです。教員がどのように受け止め、どのように現場に生かしていくか気になります。

### ○学校教育課主任指導主事

今回の講演では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を進めていくため、

第一人者である石井英真氏に講演をお願いしました。同様の講演会では教育理論に偏りがちのところを、常に目の前の子どものことを考えて進めていくべきとしている点は必要な視点であったと思います。ただ、多くの知識が出てきましたので、教員にとって消化不良がある可能性は感じました。

○委員

講師はどのように決定していますか。

○学校教育課主任指導主事

教育委員会が決定します。昨年に引き続き、工藤先生に声掛けしましたが、日程や講演内容が調整できずに断念しました。講演会の日を決めていたもので、都合がつき、かつ、進めていくべき「個別最適な学び」と「協働的な学び」の第一人者として、石井氏をお願いすることとしました。

○委員

教員に希望を取るなどはしていませんか。

○学校教育課主任指導主事

今回のために希望調査はしていません。ただし、講演会後のアンケートで、今後聞きたいテーマ、呼んで欲しい講師などを聞くことがありますので、参考にすることはあります。

○委員

工藤先生のような実践では、文部科学省から指導や指摘が想定されますか。

○学校教育課主任指導主事

文部科学省からの指導や指摘はないと考えています。指導から支援にシフトしている生徒指導の方針は、工藤先生の考え方に近づいているように感じます。しかし、まだ一般化しているとはまでは言えないと思います。

○市長

学習指導要領に沿う形であれば比較的裁量はあると理解して良いと思います。

## ② 学校公開の授業見学（9月20日半田小学校など）について

### ○委員

多くの教員が考えて、授業を実施しており、全体的には良いと感じました。多くが学年ごとで同じ題材で授業をする中、あるクラスは独自の授業を行っていました。授業後にどのように今回の授業を組み立てたのかを担当に確認したところ、「一所懸命に考えた」とのことでした。とても良いことで、取組を広げて行ってほしいと感じました。

### ○委員

各教員は苦勞し、試行錯誤し、授業を組み立てていると感じました。教員の立場で考えると子どもたちが予想外の反応をした場面もあったと思います。公開授業は児童・生徒も印象に残りやすい日だと思いますので、良い機会に幸せについて考えるという良い取組をしていると感じました。

### ○委員

昨年度も合わせて考えると、各学校の方針によって教員の取組が変わる感じました。1年に1回だけのハッピーウイークの取組で終わらせるにはもったいないと思います。授業という形でなくても日常の中で「幸せ」について触れ、連続性を持った教育が実践できると良いと思います。また、学校の方針としてどのように進めていくかという話にもなりますが、1年生から6年生の連続性が持てると更に良い取組になると思います。

### ○委員

その通りだと思います。日々の取組、日々進歩する仕組みが必要だと思います。今年度の取組を踏まえ、来年度、再来年度に成長するように、スピード感を持って取り組む必要があります。

### ○委員

それぞれの教員が考えて取り組んでいたと思いますが、「幸せになるための

教育」として印象に残る授業ではありませんでした。

### ③ 教育委員会自主勉強会（11月8日開催）について

教員の自主的な勉強会に20名程度が集まり、会議からは鈴木、神谷、曾根が参加しました。テーマは「ハッピーウイークの取組の共有」でグループに分かれて、意見交換しました。

#### ○委員

機会を作ってもらいありがとうございました。仕事後に自発的な勉強会ですので意識が高い教員が集まっていました。10年を超える中堅の教員や院生も参加していました。半田市でなぜハッピーウイークの取組をしているのかを確認しましたが、わかる参加者はいませんでした。理念の浸透はまだ不足していると感じましたので、私なりに伝えました。私が感じたのは、教員だけで話すのではなく、経験や職業が異なる方と話す機会を増やすことで、多様な価値観を吸収できる機会があると、良い教育につながるのではないかと思います。

幸せにつながることをするとシールを張り、幸せになる木を作るなど自分で考えた取組をしている教員がいたのは印象に残っています。

#### ○事務局（内田）

ある教員は、勤務する学校ではハッピーウイークに幸せについての取組をしていないにもかかわらず、今回の自主勉強会「ハッピーウイークの取組の共有」に参加していましたので、意識の高いことは間違いありません。この会議の委員である3名も異なる視点で教員と意見交換していましたので、教員にとっても、良い機会であったと思います。

#### ○委員長

私どもが提言した幸せになるための教育が現場まで浸透していないと感じましたが、20分ぐらいの対話で教員が一定の理解をしてくれました。「ハッピーウイーク」で授業をすることは機会づくりとして良いことですが、もっと大切なことは、教員や子どもたちが幸せについて対話することだと思います。対話の中で、学校内にとどまらない社会について考える必要があります。視野を広げるために、私どものような民間人材を含めいろいろな経験、職業の人と対話できる機会が大切だと思います。現場の教員も望んでいると思います。

#### ○委員

熱心な教員がいることがわかり、勇気づけられました。良い機会でした。今回、私は教員の悩みや考えをしっかりと聞こうと思い、研修会に臨みました。対話をした印象は、一生懸命、教員は取組んでいますが、思考が教員の世界に留まっているため狭いと感じました。また、「幸せ」についての理解を聞いたところ、ほとんど答えられませんでした。多くの大人が幸せの概念について考えていないと思いますので、今回の参加者が特殊なわけではないですが、この点を変えることが幸せになるための教育を進めていくためには重要なポイントになります。幸せの概念をしっかりと持つことが基盤になりますので、幸せになるための教育の実現はまだ道半ばだと思います。

希望は持っています。取り組む方向性が間違っているわけではありませんので、頻度を上げて、継続的に取組を進めてください。

#### ○学校教育課主任指導主事

今回の参加者の意見等はまとめている最中です。幸せの概念については教員の熟度に差があり、取組も形式的になりがちなところもあります。各校長が毎年、作成する学校経営案の方針に「幸せ」が記載されようになりましたが、委員が求めている理念等が浸透していない面も感じます。これからは教員への「幸せになるための教育」の理念や意義も浸透していくことが必要と感じました。

#### ○委員長

幸せの実現のために取組を進めてください。また、自分たちの幸せも含め幸せについて教員同士で話して欲しいと思います。

#### ○委員

幸せのために教員が自ら考え、実践できる仕組みづくりを教育委員会で考えてください。

### (2) 幸せになるための教育を実現する会議のまとめと今後について

#### ○事務局

本会議の任期が今年度末までで、今までの経過等をまとめました。別添のとおりです。

#### ○委員

幸せになるための教育の実現が目的ですが、まだ道半ばであるため、会議としても満足してはいけません。これからも取組が必要ですので、2点の具体的な取組を提案します。

1点目は、現在、ハッピーウイークのみで行われている幸せに関連した授業を月に1回実施すること。月4回の道徳授業のうち1回を幸せ教育に割り当てればできると思います。また、教員間の取組の共有は、板書データだけでなく別の方法も考えて、強化してください。例えば、学期に1回の発表会などが考えられます。

2点目は、教員の負担感を半減する取組をしてください。負担を半減するわけではなく負担感ですのでご注意ください。例えば、教員が幸せを感じられる取組を進めることや、負担と感じている保護者対応を減らしてあげる仕組みづくりが考えられます。

#### ○委員長

教員の幸せについて考える時間を作ってください。また、負担感は業務を減らすだけでなく、教員の悩みを減らしてあげることなどでも低減すると思います。

#### ○学校教育課主任指導主事

負担感は把握することが非常に難しいです。新たな負担増は負担感増につながる傾向にあります。しかし、考え方を整理するだけで負担感を減らせる可能性があります。例えば、幸せ教育をキャリア教育や新しい教育などと関連づけて上手に整理するなどです。

#### ○委員

常に新しい課題が発生し、取り組まなくてはならない事柄が増えることは民間事業では当たり前で、学校現場でも当然あると思います。負担は増えること

を新たな取組ができない理由としてはいけません。現場で新たな取組を進めるために、優先順位、相関関係を整理するのは教育委員会や校長の責務です。そのためには世の中や社会のことについて勉強する必要があります。

#### ○委員

提言2の『「幸せになるための教育」を実現していくやり方は、各学校、各教員が主体的に自由に考え、進めていくこと』は現場の先生にとって、自分で考えることですので非常に負担に感じているのではないのでしょうか。多くの教員はやり方のヒントが欲しいと感じているはずです。しかし、難しく考える必要はありません。授業で取り組むために準備することを前提とするのではなく、日々の生活の中で意識して、機会があれば会話に取り上げるだけでも十分な取組です。

#### ○委員

教員だけでなく、多くの人が社会において、言われたことこなす方が、自分で自由に考えて進めていくより楽と感じると思います。しかしそれでは負担感は減りません。自分で考え取り組み、検証の結果、成功体験が得られれば、負担感ではなく、やりがいにつながると思います。私はこの検証、評価する場や仕組みが作れると良いと思います。

#### ○市長

この会議は任期である今年度末を区切りとします。委員の意見は、私が責任をもって受け止め、総合教育会議等で教育委員会と協議します。私は、この3年間で推進するために総合教育会議の協議内容やタイミングを変え、慣例の教育委員の任期を変更するなど、仕組みづくりを行ってきました。今後は現場での取組が重要です。本日の会議で、理念が教育現場まで十分に浸透していない課題がわかり、対応策についても意見をいただきました。私が受け止め、教育委員会に提案し、更に必要な仕組みを作ってもらおう予定です。また、この会議終了後も皆様からアイデアも伺いながらしっかり進めていきます。

また、今回進めていくにあたって、私の感じた点をお伝えします。教員は一生懸命に取組で来ています。幸せになるための教育についても理解してくれ

れば、進むものであると思います。

一方、進めていく中での難しさも感じています。1つ目は、教員の異動は半田市内だけではありません。市町が変われば、上司（教育長）も変わります。せっかく半田市の幸せになるため教育を理解してくれても、別の市町では取組をしていませんのでリセットされてしまいます。2つ目は教育に失敗が許されないことです。教員はチャレンジを失敗したとしても成長できますが、失敗した時の子どもにとっての1年は取り戻すことができません。また、他クラス、他校、他市町とも比較され、違いを許してもらえない環境にはありません。これらの特徴もふまえて取組を進めていく必要があります。

#### ○委員長

この会議の任期は今年度末までですが、幸せになるための教育の実現できれば良いと思います。教員も半田市で勤務できてよかったと思って欲しいです。

## 2. その他

#### ○事務局

令和7年2月頃の第17回会議では、教育長も参加し、この会議として伝えるべきこと、今後の教育現場の取組について意見交換を考えています。第17回会議をもってこの会議を終了する予定ですが、先ほどの市長発言のとおり、委員の皆様のご意見をお伺いしたいと考えていますので、意見は事務局にお知らせください。

<終了>